

いのちと地域を守る

防災・減災のページ

第125回 巡回ワークショップ @石巻・湊中

むすび塾



登校中だった志摩俊祐さん14は、防災無線を聞いて友人の家に駆け込み、避難場所に向かったという。木村理仁さん(14)は自宅

2年生5人と教員、町内会役員、石巻専修大の学生と教員ら計12人が参加し、一般社団法人被災・復興支援機構(東京)専務理事の宮下加奈さん(56)が助言者を務めた。

カムチャツカ半島付近の地震では午前8時37分に津波注意報、9時40分に津波警報が発表された。学校は夏休みで、部活動がある生徒が登校途中だったり自宅

情報収集し、警報に変わった時点で高台に避難した。石巻専修大の小松真治助教(31)は、スマートフォン

カムチャツカ半島地震津波

河北新報社は昨年12月5日、通算15回目の防災ワークショップ「むすび塾」を宮城県石巻市の湊中

警報後どう行動 再確認

石巻市湊中の取り組みに学ぶ



監修 被災・復興支援機構

イラスト さとうあけみ

生徒たちは、分析を基に気付いたことを発表した。遠藤寛太さん(13)は「海側の避難タワーは使われなかったようだ」、佐藤美尋さん(14)は「注意報の時点で

生徒からは「トンネルや内陸に向かった人たちはその後、どこに行ったのだろうか」と疑問の声が上がった。小松助教は「データでは

生徒からは「トンネルや内陸に向かった人たちはその後、どこに行ったのだろうか」と疑問の声が上がった。小松助教は「データでは

避難する人が少ない」と発言。斎藤寛太さん(14)は高台の周辺の人たちは徒歩で避難していた」と語った。

生徒たちは、分析を基に気付いたことを発表した。遠藤寛太さん(13)は「海側の避難タワーは使われなかったようだ」、佐藤美尋さん(14)は「注意報の時点で

生徒からは「トンネルや内陸に向かった人たちはその後、どこに行ったのだろうか」と疑問の声が上がった。小松助教は「データでは

生徒からは「トンネルや内陸に向かった人たちはその後、どこに行ったのだろうか」と疑問の声が上がった。小松助教は「データでは



生徒、街歩き特徴つかむ 防災マップ作り

湊中では2年生が総合の時間で「防災と郷土」をテーマに学習している。昨年度から地域の防災マップ作り

マップにも反映させた。完成したマップは石巻市の復興・防災マップコンクールで最高賞の市長賞に輝いた。学校では地域と生徒



湊中2年生が調査、作成した地域の防災マップ

備え 命を守る強い力

石巻専修大助教 小松真治さん(31)



「人流データはここだから、ここに逃げた方がいいんじゃないか」という話を、家でもしてほしい。避難先をあらかじめ決めておいて、親がいないときに災害が起きても、自分はこの間に家族の間で分かるようにお願いしたい。

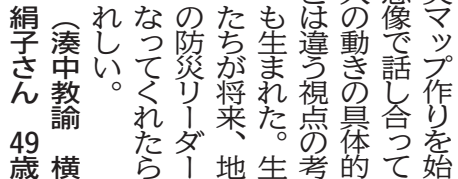
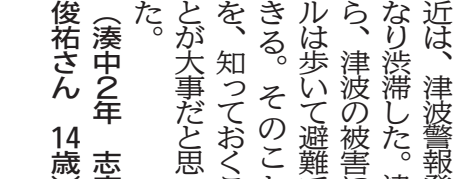
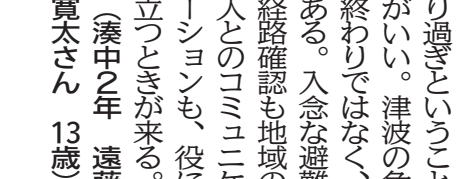
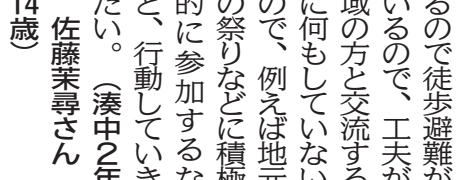
助言者から

避難先 家族と共有

被災・復興支援機構 宮下加奈さん(56) 専務理事



「避難して命が助かる」との先にある「助かった命でどう生き残るか」という視点も大切にしたい。7月のカムチャツカ半島地震の津波警報時に「暑さ対策が課題になった」と避難先に日差しを遮る設備がなければ、たと



■むすび塾に参加して

